



HPS Japan
Hospital Play Specialist

ニュースレター

News Letter

<http://hps-japan.net/>

2017
Vol.8
Nov.



♥テリー先生インタビュー♥

9月、講演のため来日したテリー・コットマン先生にお話を伺いました。

Q. 今回初来日ということですが、日本の印象はいかがですか？

A. 日本人は、とても親切です。

とても素晴らしい体験ができました。何より、みなさんが、とても温かく親切でした。タクシーの運転手さんやレストランのウェイトレスなど、私のことを全く知らない人でも、親切に助けてくれました。言葉は通じなくても、人とつながれることを実感しました。

Q. フレイセラピーをめぐる国際的動向について教えてください。

A. フレイセラピーの重要性は、国際的にもますます高まっています。

プレイセラピーの必要性・重要性は、国際的にますます認められるようになり、多くの国が取り入れるようになってきました。まだまだ、プレイセラピーに疎い国もまだありますが、導入されつつあります。

また、従来型のいわゆるプレイセラピーを越え、様々な分野で応用されるようになってきました。HPSもこの手法を用いますね。災害現場でもプレイセラピーが取り入れられるようになり、より早い段階で子どもにケアが出来るようになりました。

先月、テキサスでハリケーンによる甚大な被害がりましたが、その際も、多くのプレイセラピストが現地に入り、シェルターで、子どもたちにプレイセラピーを行いました。手当は早ければ早いほど、トラウマになりにくいのです。このほか、震災や難民支援の現場でも活用されるようになっていきます。

Q. 講義の中で「大人は、緊張しているときでも笑ってしまう(作り笑いする)ことがあるが、こうした態度は子どもを混乱させてしまう」とおっしゃいました。しかし一方で「子どもの病状を心配するあまり、深刻な顔になってしまっは、子どもに不安を与えてしまう」ともおっしゃいました。一体どのような態度で、子どもと接すればいいのでしょうか？

A. 子どもに「嘘をつかないこと」自分の感情をコントロールすること。

どういう態度をとるか、というよりも『嘘をつかない』ということが非常に大事です。もちろん、自分自身が感じる不安や恐怖心はありますから、それは自分で整理し、マネジメントし、コントロールしなければなりません。そうしないと、自分が持つ不安や恐怖心を子どもに移してしまうからです。



ですから、一人ひとりが、自分を落ち着かせる方法を持っていないければなりません。母親やHPSが不安を持っていると、子どもは負の感情を掛け算式に何倍にも増大させてしまいます。

子どもに伝えるべきは、楽観的に、必ず明るい方向に向かうという意識です。まず自分に自信を持ってください。そして、必ず良くなる、子どもとの関係も良くなっていく、そうした自信を見せてください。

講義で『幸運にも不幸にも』というゲーム(※)をしましたが、これこそ、どのような状況であっても、肯定感・楽観性を保つためのトレーニングなのです。

嘘をつかないこと。自分自身の感情をマネジメントし、作り笑いではなく、心からの笑顔で、楽観性や自信を子どもに伝えてほしいと思います。

※『幸運にも不幸にも』ゲーム*****
2〜3人で行います。まず例文をつくります。「ゆうこは公園に行きました」この後に、『幸運にも〇〇(友達がいきました)』続いて『不幸にも〇〇(お腹が痛くなってきました)』続いて『幸運にも〇〇(友達が薬を持っていた)』というように、『幸運にも〜/不幸にも〜』と交互に会話を進めていきます。

これは、子どもの思考の枠組みを変えるトレーニングです。辛い体験をしてきた子どもは悲観的になりがちです。そんな子どもに対し「もっと元気を出して！」などと言う必要はありません。辛い、悲しい気持ちはそのまま感じていいのです。でも悪いことだけだっただろうか？ 他にも感じられることがあったんじゃないか？ このゲームは、そのことに気づかせてくれます。子どもが、ネガティブな思考パターンを脱し、どんな辛い状況でも肯定的な側面があることを理解できれば、様々な局面を自分で乗り越えることができるでしょう。



Q. HPS養成講座で、現在までに161名のHPSを輩出しました。しかし病院にHPSが1人しかいないケースが8割を占めており、院内で孤立しがちです。HPSにメッセージをお願いします。

A. つながり、励まし合いを大事に。

病気や怪我をした子どもと遊ぶ専門職がいるというのは、本当によいことだと思います。子どもは、遊ぶことで、恐怖心をなくすことができますし、何が起きているのか理解することができます。さらに病院に対するネガティブな感情を軽減することにもつながります。

HPSが孤立している状況については、病院どうしでつながりを作るといいですね。ブロック活動で地域ごとにつながりを作っていく、こうした取組みは非常に重要だと思います。何より、お互いを励ます場として活用してほしいです。

「燃え尽き症候群」に関する調査では、孤独感が強ければ強いほど、燃え尽きてしまう傾向が強いということが分かっています。ですから、セルフケアが必要です。自分と類似した職業の人とたくさん話すこともいいですね。ちなみに私は、地域のプレイセラピストが集まり、本の読み合わせをする活動に参加しています。

Q. 病児を抱える家族へのメッセージをお願いします。

A. 常に励まし、選択肢を与えて。

常に、子どもを促し、励ます姿勢を持ってほしいと思います。ただし、子どもが一人で出来ることを、親が必要以上にやりすぎる必要はありません。特に慢性疾患を持っているお子さんの親は、必要以上に過干渉になりがちです。ですから、親御さんには、子どもに常に選択肢を与えるということを意識してほしいと思います。小さい選択肢でもいいです。とにかく選択させ、自己決定権を与えることが大事ですよ。

♡テリー先生♡
ありがとうございました！



♪ 番外編 ♪

静岡滞在中、HPSの中山陽子さんが、テリー先生に様々な日本文化体験を企画し、もてなしてくれました。中山さん、ありがとうございました！



【今後の活動予定】 2017.12～2018.3

開催日	内容	場所
12/2(土) ～3(日)	上級HPS講座(講師:松平千佳)	静岡県立大学短期大学部
2/10(土)	第10回国際シンポジウム&ワークショップ	静岡県立大学短期大学部
2/11(日)	第6回スキルアップ講座(※HPS限定)	静岡県立大学短期大学部

今回は、TOOTH FAIRYの支援を受けて9月3日に鹿児島で開催された『ホスピタル・プレイ 遊育支援 ワークショップin鹿児島』に参加した3ブロックのメンバーから投稿いただきました。医療的ケア児への遊びの必要性、医療と遊びをつなぐホスピタル・プレイ意味を体験的に学ぶため、松平理事長の講演とHPSによる9ブースを用意しました。当日は難病の子どもと家族だけではなく、医療、福祉、教育にかかわる方、学生ボランティアなど130名の参加がありました。参加された方からは、講演でHPSについて詳しく知ることができて、子どもにとって遊びが大切だと実感できたなど嬉しい声をいただきました。

静岡ブロック



『ひとがたアート！！ぼく・わたし』

静岡ブロックでは、普段車いすやベッドで過ごす子どもたちに、体の大きさを体感してほしいと思い、「ひとがたアート」のブースを出しました。どんな気持ちなのか、手で何をつかみたいのか、足でどこに行きたいのか、ひとがたをとった後に、お子さんの反応を見たり、親御さんの気持ちを聞き出したりしながら、それぞれに個性のある楽しいひとがたが完成しました。お子さんのはにかむ姿、親御さんの体の大きさに驚く姿なども見ることが出来、楽しいひとときが過ごせました。

●レポート（寺田 智子）

関西ブロック



お揃いのエプロンを着用し参加してきました！

【ストレスボール作り】風船の中に好みの感触の物を入れて作成。「この感触いいね！」「これ握りやすいよね！」とお子様、ご家族様、支援者様と楽しくお話ししながら作ってもらうことができ、また「今度の活動の日に作ってみよう！」と活動のきっかけになったと言ってくださる方もいらっしゃいました。

【スヌーズレン体験】特別で何かと高価な物が多いと思われがちですが、決してそんな事なく、日々の生活の中にある物でも五感を刺激する物はたくさんあります。そんな工夫をお話しながら、体験してもらうことができたかと思います。

●レポート（高山 優子）

関東ブロック



『ICT救助隊とコラボしたスイッチ遊び』

関東ブロックは、『ICT救助隊とHPS松平先生のコラボレーション - スイッチでおこなう遊び -』の企画をお手伝いしました。ICT救助隊からのドラえもんをリモコンで動かす遊びを受けて、そこにHPSとして変化を加えた遊びに展開しました。

ドラえもんではなく、子どもがなりたい人や友達に変身させました。子どもが描いた顔を貼り、服や髪もテーブルいっぱいに並んだグッズから選ぶ事ができます。お姫様のようにドレスを着て長い髪にティアラを付ける子、お父さんのようにネクタイをする子、名前もつけて…どの子も個性的に表現していました。リモコンは直進するスイッチと回転するスイッチの2つ。お母さんやきょうだいと一つずつ持って操作します。息を合わせるのが難しいのですが、2人で力を合わせて目標のペットボトルを倒すこともできました。

●レポート（杉渕早苗）

新スタッフあいさつ 中野美玲（なかの みれい） 静岡県短大勤務・NPOホスピタル・プレイ協会事務局
中野美玲と申します。管理栄養士として総合病院に勤務していました。今回縁あってHPS事務局の一員となりました。食事とは入院している子どもたちにとって楽しみであるはずのものです、自分は食事療法、栄養指導に夢中で、遊び心が足りなかったのではないかと自問しています。すべての子どもたちのために働くHPSの皆さんに良いサポートができるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

新スタッフあいさつ 濱川優子（はまかわ ゆうこ） 静岡県短大勤務・NPOホスピタル・プレイ協会事務局
この度、HPS事務局で勤務することになりました濱川優子です。トロロの里、所沢市から静岡に越えてきて2年半が経ちました。これまで早稲田大学で15年ほど英語を教えてきました。子どもたちをサポートする皆さんをうまくサポートできるよう、早く事務局の仕事に慣れたいと思っています。趣味は音楽、演奏も鑑賞も大好きです。どうぞよろしくお願いいたします。

NPO法人日本ホスピタル・プレイ協会

～すべての子どもの遊びと支援を考える会～

〒453-0041 名古屋市中村区本陣通5-6-1

地域資源長屋なかむら1階

TEL&FAX 054(202)2652

Mail info@hps-japan.net

事務局 南 伸予、木村 尚子

HPS Japan 静岡県立大学短期大学部

〒422-8021 静岡市駿河区小鹿2-2-1

TEL&FAX 054(202)2652

Mail hps-japan@u-shizuoka-ken.ac.jp

事務局 中野美玲、濱川優子



HPS Japan
Hospital Play Specialist